

視覚と聴覚の重複（盲ろう）障がいについて

視覚障がいと聴覚障がいの両方をあわせ持つ重複（盲ろう）障がいには、大きく分けて次の4つのタイプがあります。

- ・全盲ろう・・・全く見えなくて、全く聞こえない人
- ・全盲難聴・・・全く見えなくて、少し聞こえる人
- ・弱視ろう・・・少し見えて、全く聞こえない人
- ・弱視難聴・・・少し見えて、少し聞こえる人

コミュニケーション手段

主なコミュニケーションの方法としては、次のようなものがあります。これらの中から一つ、あるいは複数の方法を組み合わせて使用します。

触手話・接近手話（弱視手話）

触手話は、手話が見えない全盲ろう者が、手話の形を手で触って読み取る方法です。

接近手話（弱視手話）は、弱視ろう者の見え方にあわせて、接近するなどして手話を行う方法です。



触手話

点字

点字の触読が可能な盲ろう者は、点字を読み取ることでコミュニケーションをとることがあります。「プリスタ」というドイツ製の速記用点字タイプライターで打ち出した点字テープを読み取る方法や、コンピュータと接続した点字ディスプレイに出力する方法などがあります。

字タイプライターのキーの代わりに通訳・介助者が盲ろう者の指を直接たたく方法（指点字）があります。



プリスタ



点字ディスプレイ



指点字

手のひら書き

盲ろう者の手のひらに文字を書いて伝える方法です。



手のひら書き

音声

盲ろう者に聴力が残っている場合、その盲ろう者が聞こえやすいように耳元や補聴器のマイク（集音器）に向かって話す方法です。

筆談

盲ろう者に視力が残っている場合、通訳・介助者が紙などに文字を書いて伝える方法です。

指文字

五十音に対応する指文字や、アメリカ手話のアルファベットを、盲ろう者に触らせたりして伝える方法です。



指文字

その他

パソコン通訳など

盲ろう者と話すときは

「手話ができないから」と遠慮せずに、積極的にコミュニケーションを取るようしましょう。特別なコミュニケーション手段を知らなくても、手のひらに文字を書くだけで会話できる方も少なくありません。

自分の名前を伝える

盲ろう者はすぐそばに人がいてもわかりません。そっと手や肩に触れてから名前を伝えましょう。

周囲の状況を伝える

現在いる場所の状況（広さ、形、何があるかなど）を伝えてあげてください。例えば部屋に入った時には、「縦長の口の字形に机が並んでいます」、「入口と反対側の壁側にホワイトボードがあります」などと具体的に状況を伝えましょう。

話し始めたらいつも触れておく

突然手を離されると盲ろう者は不安になってしまいます。常にどこかに触れているようにしましょう。

あいづちを打つ

しぐさで「あいづち」や「うなずき」などをしても盲ろう者にとっては確認しにくいので、肩を軽くたたいたり、手話を使うなど、代わりの方法で「あいづち」を打つようにしましょう。

話が通じているか常に確認する

読み取り違いや聞き違いがあると、話が伝わらなかつたり誤解を招いたりします。盲ろう者の表情や発言内容などを確認し、伝わっていない場合は最初から言い直したり、さらに説明を加えるなどしましょう。

その場から離れるときは、そのことを伝える

何も言わずに突然その場を離れると、盲ろう者は不安になってしまいます。「トイレに行くので、5分ほどここで待っていてください」などと、離れる理由と時間を伝えてからその場を離れましょう。その際は、壁や柱などに手を触れさせるなどして、空間に孤立させないようにしましょう。